

第22回
和紙文化
講演会
WASHI

和紙文化 in 越前

講演会

「越前和紙の伝統と創造の世界」
会場：越前市いまだて芸術館
2014/11/24(月・祝)



料紙に見る藍と紫
名児耶 明
(公益社団法人五島美術館常務理事副館長)



越前和紙と時代との関わり
増田勝彦
(和紙文化研究会副会長)



受け継ぎ、研ぎすまし、そして革新
石川満夫
(元福井県和紙工業協同組合理事長)

パネルディスカッション：パネラー

**名児耶 明・石川満夫・
高橋裕次**
(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館)
吉野敏武
(元宮内庁書陵部修補室長)

司会：増田勝彦

入場料：1,500円(要旨集&和紙文化研究22号代)
申込み：事前受付

展覧会

「和紙の姿展」
「Echizen和紙を創作する」
様々なジャンルによる越前和紙の作品展示
2014/11/15(土)～12/14(日)
会場：越前和紙の里 卯立の工芸館

産地見学会

「越前紙漉き工房を自由に見学」
2014/11/25(火)
場所：越前市五箇地区

越前和紙の里風景



主催：福井県和紙工業協同組合・和紙文化研究会
共催：福井県・越前市・越前市教育委員会・越前和紙を愛する会・越前和紙研究会
後援：福井県教育委員会・文化財保存修復学会・美術史学会・毎日新聞社・(財)毎日書道会・全国手すき和紙連合会・日本紙アカデミー・日本民藝協会・全国表具経師内装組合連合会・東京表具経師内装文化協会・福井県中小企業団体中央会・FBC福井放送・福井テレビ・FM福井・丹南ケーブルテレビ・日刊県民福井・中日新聞・月刊URALA・福井県書作家協会・越前民藝協会・福井県表具組合連合会
主管：和紙文化in越前 実行委員会

【参加申込方法】 和紙文化講演会・産地見学会は事前受付制。参加申込と参加費の事前払込みが必要で、交流会は事前申込み4,500円(払戻しはありません。当日5,000円ですがお断りする場合があります)一般の方は和紙文化研究会、福井県内の方は福井県和紙工業協同組合に、申込み用紙に住所・氏名・電話・E-mailなどご記入の上、郵送・FAX・メールでお申し込み下さい。申込用紙はHPまたは問合せ先からFAXなどで取得できます。参加費は合計金額を干振替(和紙文化講演会 00170-8-402506・福井県和紙工業協同組合 0070-2-3635)にてご入金下さい。

【お問合せ先】 **和紙文化研究会事務局** 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 東京藝術大学 大学院美術研究科 保存科学気付 和紙文化in越前 第22回和紙文化講演会事務局
東京藝大内 FAX 03-5685-7780 E-mail: washibunaka.koenkai@gmail.com http://washiken.sakura.ne.jp/
特設携帯電話 080-5860-5943 会期までの平日、午前10時～6時まで
福井県和紙工業協同組合 〒915-0232 福井県越前市新在家町8-44 ハビルス館内 TEL:0778-43-0875 (平日) FAX:0778-43-1142
E-mail: info@washi.jp http://www.washi.jp/



講演会

「越前和紙の伝統と創造の世界」

越前市いまだて芸術館

福井県越前市粟田部町 11-1-1

2014/11/24(月・祝) 13:00~17:30

入場料 1,500円 (要旨集&和紙文化研究 22号代)

申込み: 事前受付

越前和紙は伝統と創造の中で、多種多様な和紙文化を生み出し、長きにわたり国内外に広がっていった。奉書・鳥の子・透かし・加飾技術などで書画・版画・障子や襖・お札や証券などが作られてきたが、その歴史的な多様性を著名な先生方に講演いただき、パネルディスカッションを通じて分析・検証していただき、減少の一途を辿る和紙の可能性を考えてみる。



基調講演:

「料紙に見る藍と紫」

名児耶明

(公益社団法人五島美術館常務理事副館長)

平安時代以来、仮名用の紙として知られる装飾料紙には、さまざまなものが見られるが、基本となるものに藍と紫の色がある。奈良時代の紫紙に金泥で写経した紫紙金字経や紺紙に銀泥で写経した紺紙銀字経、色替わりの紙に写経する色紙経などがあつた。平安時代も、藍と紫は色の基本として存在し、紙の上下に雲状に藍を漉き込んだ、雲紙(打ち曇り)や空に浮かぶ雲のように藍と紫を混ぜた飛雲文様が料紙の定番としてあつた。その雲紙と飛雲文様の過去の例を示しながら、藍を中心にその変遷をたどってみようと思う。

「越前和紙と時代との関わり」

増田勝彦

(和紙文化研究会副会長)

奈良時代以降、和紙は中韓に比較しても日本独自の発展を見ました。延喜式の記述に代表される古代の和紙、鎌倉・室町時代中世の和紙、近世江戸の和紙、そして明治以降、機械製紙に対抗する中で開発された和紙が、それぞれの時代とどのように関わって来たかについて概観しようと思います。その中で、越前和紙はどのような存在で有ったのでしょうか。資料を拾い集めるなかで、越前和紙の歴史の長さや技術の広がりや姿を現らすことを期待しています。

「受け継ぎ、研ぎすまし、そして革新」

石川満夫

(元福井県和紙工業協同組合理事長)

越前和紙の先人たちは、その長い歴史のなかで、伝統の根底の技を正しく受け継ぎ、それを研ぎすまし、そして工夫をこらして新しい技術・技法を編み出し、その時代の求めに応える最良の紙を創りあげてきました。常に革新しつづけて、新しい時代の「用」と「美」に供する「時代の紙」を創ってきたことこそ、越前和紙の真骨頂と云えます。和紙の「素材力」に光をあてた越前和紙の多彩な技術・技法の展開を考察し、その創造力を検証します。

パネルディスカッション: パネラー

名児耶明・石川満夫・高橋裕次・吉野敏武

司会: 増田勝彦

展覧会

「和紙の姿展」

「Echizen 和紙を創作する」

越前和紙の里 卯立の工芸館

福井県越前市新在家町 9-21-2 和紙の里通り内

2014/11/15(土)~12/14(日)

9:00~16:00 火曜日休館(11/25は開館)

入場料: 大人 200円 小中生 100円

(15名以上の団体は 50円引)

紙の文化博物館も見学可能、講演会・産地見学会参加者は無料。

越前和紙を使い、書・画・紙衣・アートプリント・和紙造形・照明・表装・製本など様々なジャンルの作家が、伝統性または創作性の中で越前和紙の可能性を探る作品展。キャプションと目録を充実させ、使用した和紙の特性や制作上のコンセプトをわかるようにし、子どもから大人までだれでも理解できて、和紙の再発見ができる。



産地見学会

「越前紙漉き工房を自由に見学」

場所: 越前市五箇地区

2014/11/25(火) 9:00~12:00

参加料: 大人1,000円 高校生以下 500円

(地図・記念品含む)

申込み: 事前受付

史上初の試みで五箇地区の紙漉き工房を自由に見学できるという、研究者や和紙ファンにとってはまたとないチャンス。地図を片手に行きたい工房を巡り、質問等には地元紙倶楽部の方々が案内役として対応してくれる。誰がどうやって漉き乾かすのか、あなたの眼で見てください。各工房の紙は、パピルス館で購入できるようにしている。

会場案内図



和紙文化 in 越前

第22回記念
和紙文化講演会によせて

和紙文化研究会
会長 稲葉政満

越前和紙の伝統と創造の世界

越前和紙の歴史は千五百年と非常に長い。そこには先人が築いた伝統があり、各時代の作り手によって様々な創造が行なわれ、多種多様な越前和紙を生み出し今日まで国内外で愛されている。しかしそれらは発展や消滅など様々な変遷を辿っている。これを検証し可能性を見出すことは和紙のこれからに大きな意味を持つ。

① 和紙文化講演会では時代的な多様性の変遷や用途の検証に光をあて、
② 展覧会では様々なジャンルの作家が可能性を追求し、
③ 産地見学会ではその多様な紙がどこからどのように生まれるのか
自分の眼でみていただき、総合的に和紙の明日を創造したい。

「和紙文化研究会」創立から5年目の1993年に第1回和紙文化講演会を開催した。毎月の例会での「和紙文化研究会」の研究成果を世に広めること、招聘講師により和紙文化研究をさらに深めることがその目的である。和紙産地である越前において今回初めて共同開催となった。今回の講演会、展覧会等が、越前和紙と和紙文化研究会のみならず、和紙文化全体のさらなる発展に寄与できればと願っている。